

さわらび福祉会 小規模保育園

「『保育の2020年問題』を考えれば、今の状態にあぐらをかいてはいけぬ。保育園児が減少する20年を見込み、今からできることをしないと」。さわらび福祉会の和田泰彦副理事長は、駅型にこだわって小規模保育園を開いた理由を語った。

同会は1日に「馬橋ルーム」(定員18人)、「八柱ルーム」(12人)、「北松戸ルーム」(同)という駅型保育園を開所した。同会は3ルームを含めこの3年間で5カ所

の保育園を開いた。最大の理由は、待機児童問題を見越さずという社会福祉法人としての使命感だが、一方で5〜10年先を見据えた戦略がある。

駅型へのこだわりも「子どもが減れば郊外の保育園は利用されなくなるが、駅型はその心配がない。近い将来には各ルームの園児を本園に連れて行き、広い園庭で遊ばせたい。そうすれば地域全体で保育園などの定員割れにも対応できる」と和田副理事長は話す。

同会の戦略で最も重要な柱が人材確保だ。照明のLED化など徹底したコスト削減で捻出した費用を給与・手当、キャリアアップなどに反映させている。

例えば短大卒の保育士

コース アップ

2015.4.6

所開わりこだわり駅



給与や福利厚生も工夫

の初任給は16万7000円の基本給に3%の調整手当、独自の初任者手当を加え20万1000円に設定。パートの時間給も近隣のスーパーマーケットより200円余り高い1100円にした。また、手当は副主任に8000円、主任に15%、園長代理に25%の管理職手当を支給。おおむね7年で、退職した元職員全員り、連絡先や家庭状況などを把握し子育てが一段落したタイミングを見計ら

で昇格するキャリアアップモデルも示している。さらに福利厚生では、誕生日に近い金曜日が月曜日を休みにして3連休を、園児の少ないお盆を中心に5連休を取得するよう義務付けている。

一方、職員採用面でも学生が来やすい曜日に見学・選考会を複数回開いたり、保育士養成施設への求人協力の際に同施設の卒業生を同行させたりするなど工夫。養成施設の学生を保育士補助員のアルバイトで雇いそのまま正規雇用につなげた1日のオープニングセレモニーは本郷谷・松戸市長(中央右)も訪れた

1日のオープニングセレモニーは本郷谷・松戸市長(中央右)も訪れた

(井口拓治)